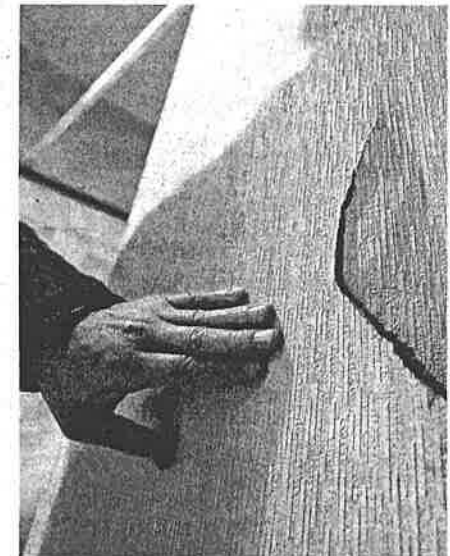


「今は十九年間、修理しないままだ。」「私たち家族の、崩壊と格闘の象徴だから」

長男が一九九九年、都立高校を一年で退学し、歯車に「怠けるな」と叱り続けが狂いだした。腹いせから、自宅近くでナイフを出して男性二人を「金を出せ」と脅し、現行犯逮捕された。刑事が「捕まえてく

ら、自宅近くでナイフを出して男性二人を「金を出せ」と脅し、現行犯逮捕された。刑事が「捕まえてく

ら、自宅近くでナイフを出して男性二人を「金を出せ」と脅し、現行犯逮捕された。刑事が「捕まえてく



19年前、高校を中退して荒れ始めた自宅の壁。父親は「息子とき合っていれば」と悔やむ＝東京都

に二七電話罪で実刑判決年間、服役した。出所した長男も手助けした。長男は「任じゃない」以上、昔事件から

# 震災7年 復興の人手減少

## 横浜の医師

東日本大震災の被災地で活動する自治体の応援職員や民間ボランティアの数は減っている。震災発生から間もなく七年。被災地からは「復興の遅れにつながるのでは」と不安の声が漏れる。

＝②面参照

「どうですか、体の調子は？」「畑(の作業)をやっていると、どうにも腰が痛くてねえ」

東日本大震災の津波被害に遭った岩手県陸前高田市の今泉地区。二〇一七年初めに診療所ができ、横浜市の総合病院に勤める医師谷川英徳さん(右)が定期的に応援に訪れて



岩手県陸前高田市の診療所で診察する谷川英徳さん(手前左)。横浜から岩手に定期的に通っている

# 被災地との絆 これからも

いる。受診した市内の無職菊池一二三さん(右)は、これまで隣の大船渡市に通院していたといい「お医者さんが近くに」と助かる」と目を細めた。

沿岸部では、地域医療を担ってきた個人病院の多くが被災した。陸前高田市では震災までに十一カ所あった病院と診療所が、震災後は八カ所に減り、医師不足も深刻化。谷川さんは病院間連携の仕組みを使って定期的に訪れており、こうした被災地の外からの応援は貴重な戦力だ。

専門は整形外科。横浜市の病院での診察や手術を終えて夕方出発し、深夜に陸前高田市に到着する。一回の訪問で五十人前後を診察。市内の仮設住宅を回り、運動不足になりがちな住民向けに講習会を開くこともある。

この一年、災害公営住宅が相次いで完成し、中心部では商業施設も開業した。街の輪郭が見え始める一方で、未完成の防潮堤や盛り土の山、行き交うトラックも目に入り「復興は道半ば」と再認識させられる。

「お年寄りも若い世代も安心して暮らせる医療環境が復興には不可欠だ」と谷川さん。通い続ける診療所は「被災地と自分をつなぐ絆のようなもの」と感じている。

「微力だが、これからも応援していきたい」。言葉に決意を込めた。

## 「似た火山比較で噴火

### 草津白根山受け シンポで研究者

文部科学省は二十七日、火山の噴火予測研究の課題や今後の展望を紹介するシンポジウムを東京都内で開いた。草津白根山が突然噴火したことを受け、研究者らは過去に起きた噴火を調べたり、似た特徴を持つ火

山同士を比較とで予測に役あると指摘。シンポジウムは九年の浅間地形の変化や増加を観測し、戒レベルを司を紹介。阿蘇過去の前兆に観測データ

## 8刑務所で

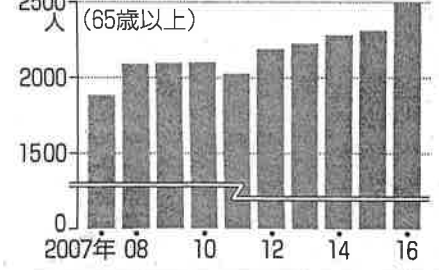
### 新年度 60歳

高齢受刑者の増加を受け、法務省は二〇一八年度から全国の主要八刑務所に入所する六十歳以上の全ての受刑者に対し、認知症検査を実施することを決めた。早期の発見で、受刑中の対応に配慮するほか、出

所後も福祉施設受け入れ先を防止を図るとの刑務所への

検査を実施 幌、宮城、府名古屋、太松、福岡の八年はいくつでは何年何月何いった質問へ

各年に入所した高齢受刑者数 (65歳以上)



刑務 必要な 大が懸念され 資格や実務 し、各地の刑 増員を計画し